

# 水稻（ちば28号（愛称：ふさこがね））

香取農林振興センター

## 1 地区名（集団名）

香取市白井地区（農事組合法人 清里ファーム）

## 2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 1法人
- (2) 栽培面積 2.01ha（9筆）
- (3) 収穫量 11.94 t 600kg/10a
- (4) 出荷先 JAかとり

## 3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	6回	7回
化学肥料（窒素分量）	4.5kg/10a	4.5kg/10a

## 4 事例のあらまし

農事組合法人「清里ファーム」は香取市白井地区（旧小見川町）に位置し、水稻、花き、露地野菜の複合経営を行っています。水稻は41haを栽培し、平成18年には県の育種品種「ちば28号（ふさこがね）」を16ha栽培しました。

そのうち2haの展示ほを設置し、種籾の温湯消毒や無人ヘリ防除地区からの除外により農薬使用回数を抑え、鶏ふん堆肥による土づくりと有機質肥料を組み合わせることで、化学肥料の使用量も削減し「ちばエコ農産物」栽培基準で栽培しました。その結果、「ふさこがね」の収量は平均585kg/10a、展示ほ分についても600kg/10a程度を確保したことで自信を深め、病害に強く倒伏しにくいちば28号（愛称：ふさこがね）は、次年度「ちばエコ農業」の認証を申請する予定です。

## 5 背景・動機

### (1) 香取地区の水稻生産

香取地区の水稻作付け面積は約1万haで、平成18年度の品種構成は「コシヒカリ」が46%、「あきたこまち」が28%、「ふさおとめ」が17%となっています。良質の早場米産地として知られ、特に旧小見川町は早生品種の作付け比率の高い地域です。

### (2) 水稻経営環境の変化

清里ファームは平成6年に法人化し、水稻を中心に規模拡大を進めると同時に花

き、露地野菜の複合経営を行ってきました。規模拡大に伴い大型機械を導入して作業の効率化を図ってきましたが、米価が低迷し、付加価値のある農産物を生産する必要が生じました。

### (3) 付加価値のある農産物の生産

清里ファームでは平成15年から鶏ふん堆肥を利用した水稻栽培、平成17年からグランドカバープランツによる畦畔管理など環境にやさしい農業に取り組んでいます。また、遠赤外線乾燥機を導入し良食味米生産に努め、付加価値のあるコメづくりをしています。



鶏ふん堆肥散布による土づくり



温湯消毒機による種籾消毒



「ちばエコ」現地検討会

## 6 栽培方法

### (1) 土づくり

前年12月に稲わらを全量すき込み、2月に鶏ふん堆肥を施用することで土づくりに努めています。

### (2) 種子予措

農薬の使用を減らすために、「湯芽工房」(タイガーカワシマ社製)を用いて、60℃の温水に10分間浸漬して種籾伝染性病害を防除しています。苗の発芽、生育は良好

であり、消毒後の廃液処理の必要もなくなります。

(3) 育 苗

種籾は4kgを28箱には種します(乾籾143g/箱)。細菌性病害の発生を防ぐために日中は換気に十分に注意し、ハウス内が極端な高温にならないようにします。

(4) 施 肥

側条施肥により施肥窒素の利用率を高め、少量の化学肥料でも初期生育を確保できるようにします。「ふさこがね」栽培に合わせて有機質肥料を36%配合した試験肥料を基肥、穂肥ともに用いました。

(5) 本田管理

植付けは60株/坪とし、代かきから田植えの期間を短くすることで雑草の発生を抑えるように努めます。また、地域では無人ヘリ防除がされますが、「ふさこがね」はいもち病に強いいため防除地区から除外しました。

ア 栽培管理

作 業 名	実 施 年 月 日
前作収穫終了	平成18年 9月20日
種 籾 消 毒	3月8日
浸 種	3月20日～
播 種	4月10日
代 か き	5月4日
田 植	5月6日
除草剤散布	5月19日
収 穫	9月5日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実 施 年 月 日	施用量	全 N	化学N
稲わら	平成17年12月中旬	0.5 t		
鶏ふん堆肥	平成18年2月上旬	75kg		
有機肥料(7-7-6)	5月6日	60kg	4.2kg	2.7kg
有機肥料(7-7-6)	7月7日	40kg	2.8kg	1.8kg
合 計			7.0kg	4.5kg

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
ダコニール1000	苗立枯病（リゾープス菌）	平成18年4月10日
オンコル粒剤5	イネミズゾウムシ、イネドロ オイムシ	5月6日
バトル粒剤	水田一年生雑草	5月19日
モゲトン粒剤	藻類	5月19日
化学合成農薬使用回数6回（総使用回数6回）		

ウ 生育と収量構成要素（品種名：ちば28号）

		ちばエコ栽培展示ほ	県目標値
幼穂形成期の生育	葉色	45.0	38～42(SPAD値)
	草丈	57.3cm	60～65cm(上限値)
	茎数	472本/m <sup>2</sup>	450～550本/m <sup>2</sup>
	茎数×葉色値	21,240	18,000～22,000
収量構成要素	穂数	400本/m <sup>2</sup>	400～450本/m <sup>2</sup>
	籾数	35,300粒/m <sup>2</sup>	31,000～33,000粒/m <sup>2</sup>
	登熟歩合	66%	85%
	玄米千粒重	24.4g	22.5～23.0g

7 今後の展望等

清里ファームは直売に積極的に取り組んでおり、10月～2月の土・日曜日に成田市内でコメや野菜を直売しています。平成18年産の水稻（コシヒカリ）と露地野菜では「ちばエコ農産物」の産地認証を取得し、エコファーマーの認証も取得するなどして、直売時にPRしています。

今後さらに消費者の支持を得て売上を拡大するために、「ちばエコ農産物」によるイメージアップを期待しています。平成18年産「ちば28号（愛称：ふさこがね）」では「ちばエコ農産物」栽培基準による栽培が実証されたため、次年度は「ちばエコ農産物」の認証を取得する予定です。

また、栽培上の課題としては、有機質肥料を用いたことにより肥効が持続して稈長が伸びすぎたので、今後、改善していく必要があります。「ちば28号（愛称：ふさこがね）」は収量性が高く組合員の評価も高かったため、販売対策にも力を入れていきます。